

幼稚園～小学校低学年を対象とした寄せ植え作り

作成者：日本ハンギングバスケット協会 山口まり

- 対象者・人数：幼稚園～小学校低学年 最大40名
- 所要時間：2時間～2時間30分（実作業45分）
- 対象場所：小学校、イベント会場、児童館等
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント1～4名



□ 資材：<寄せ植え>

- ・鉢
- ・土入れスコップ
- ・割り箸
- ・肥料
- ・用土（ごろ土、植え土、カバー用素材）
- ・鉢底ネット（必要なら）
- ・根崩し等の作業をするための器（鉢の受け皿や大きなレジ袋）
- ・（手袋）



<ハイドロカルチャー>

- ・穴のない透明な器（プラスチック製が良い。ペットボトルで作成しても良い）
- ・植え込み材（ハイドロボールやネオコール等）



□ 花材：<12月、1月、2月>

- ・ビオラ（冬期でも花が咲く品種）
- ・シロタエギク プリムラ・ジュリアン

<6月、7月>

- ・ジニア
- ・ペンタス
- ・センニチコウ
- ・フィカス・プミラ
- ・ニチニチソウ
- ・コリウス



プリムラ・ジュリアン、シロタエギク、パンジー

【指導内容と目的】

- 様々な植物に実際に触れることにより、植物を通じた楽しみ（遊ぶ・人とのふれ合い・生長する喜び）心地良さ・美しさ・植物の持つ機能を知り、また植物の多様性・扱い方を学習することで、身近な植物に興味をもつようになる。
- 植物を一つの個性ある生命として実感してもらいたい。
 - ・植物の体のつくりを実際に様々な植物と触れることにより実感する。
 - ・多様性を理解：植物の姿・形・質感、生命サイクルも様々であることを知る。
 - ・植物を数種組み合わせることにより、美しく暮らしを彩ることができる。
 - 家族や他の人も楽しめる。
 - ・日々の観察により植物の変化を知り、水やり・肥料やり等の管理、置き場（植物が育ちやすい環境に移動したり、場所を作る）の日常のケアが重要である（植物にも心を配ったり、いたわることの大切さを知る）。
 - ・育てた花の最後（枯れる）まで面倒を見ることにより、次世代へ生命をつないでゆくことを知る（種子、球根、冬・夏の越し方等）

【対象者への配慮】

- ・自宅への持ち帰りを考えて、鉢サイズを選択。材質も壊れにくいもの。
- ・実際の作業時間は、小学校の授業時間（45分前後）に合わせる。
- ・説明は、ゆっくりと大きな声で、丁寧に、平易な言葉で行なう。
- ・揃える花苗は、質感・葉型・葉色・花色等が異なるものが良い。
 - 植物の姿の違い、デザイン、色彩を考えてもらうため。
- ・多少、乱暴に扱っても、根鉢が崩れたり、株元が折れたりしない種類を選ぶ。
- ・季節に合った種類を選ぶ。
- ・棘があったり、有毒のものは使用しない。
- ・はさみ等は、使わなくて済むような花株を選ぶ。
- ・途中で万が一枯れてしまっても、がっかりしないように次の手当てを考える。
- ・出来上がった作品について、できる限り個々にコメントする。けなさないこと。
- ・作業中は、全員に目配りし、全員と平等に触れ合うようにする。

【追記事項】

- ・生活科で学習した「植物を育てること」を更に実践・実感してもらう。
- ・対象者の学年を知り、予め植物に関する生活科・理科の学習内容を把握しておく。
- ・作業中は、「何故」この作業をするのかを説明しながら行う。
- ・植え付け後からの管理については、何故、必要なかを理解できるよう十分に口頭で説明し、保護者向けの管理説明のプリントを作成しておく。
- ・花の名前・原産地等は、正確に伝えられること。
- ・伝えたい内容を、あまり欲張らないこと。
- ・生長の様子や花が咲いた喜び等、途中経過のお便りがあると嬉しいことを伝える。
- ・飽きさせないため、植物のトリビアとなる話題を用意しておく。花の形、虫との関係、現在話題になっていること、行事、和名の由来、植物関連の絵本の読み聞かせ等。
- ・より印象付けるため、最後に、植物名の記入や感想を書く用紙を用意する。
→印象付けや自宅で家族と話題になったときのため。
- ・園芸の専門用語はなるべく使わない。使う場合は用語の説明をする。

1. 指導計画・スケジュール

	月	タイトル	備考	
冬	1	・春の七草を植える	入手可能な種類で寄せ植え	
		・冬色の葉を集めて植える(葉の形・質感等の相違)	白妙菊、アイビー、斑入りノシラン等	
	2	・春の野の草(スプリング・エフェメラル=春の妖精)を植える	スマレ、タンポポ	
		・ミニバラをおしゃれな器に植えてプレゼントする	器も大事なことを理解させたい	
		・春間近の明るい色合いの寄せ植えを作る	プリムラ類	
春	3	・ミニ盆栽を作ろう	陶器の小鉢に樹木を植える	
		・多肉植物やサボテンでオブジェを作ろう	個性的な姿のものの寄せ植え	
	4	・コケに触れてみよう(苔玉を作る)	ミニ観葉とハイゴケを使用	
		・エアープランツ(チランジア)で遊ぶ	アルミワイヤーで置き台を作る	
		・花木と季節の草花を植えよう	ツツジ、カイドウ等を中心に草花と	
	5	・春植え球根を植えよう	グラジオラス、ユーコミス等	
・お母さんにプレゼントのキッチンガーデン		ミニトマト、パセリ、唐辛子等		
		・タネをまいてみよう。生長過程を楽しむ	暑さに強い花の種子を蒔き、育てる	
夏	6	・熱帯のツル植物に支柱を自作しよう	マンデビラ、ツンベルギア等	
		・観葉植物を水挿ししよう①	根の観察後、植えつける	
		・日陰で育つ花を集めよう	インパチエンス、ベゴニア、センパフローレンス等	
		・日本原産の個性的な葉の植物を集めよう	ギボウシ、イノモトソウ、ヤブラン等	
	7	・観葉植物でハイドロカルチャーを楽しむ	①の発根苗を使う	
		・ペットボトルでテラリウムを作る	①の発根苗を使う	
			・水辺の草(トクサ、シラサギカヤツリ等)をボウルに植える	素麺鉢やサラダボウルを使用
	8	・色鮮やかな葉を集めた寄せ植え	コリウス、イボメア、ヒポエステス、クロトン等	
・夏植え球根を植えよう		リコリス、ネリネ、ステンベルギア等		
秋	9	・重陽の節句にちなんで、キクを植える	コギク類やその他キク科植物	
		・お月見を楽しむ秋の七草(一部)を植える	ハギ、ススキ、オミナエシ、フジバカマ、ナデシコ等	
		・秋色の葉と花を集めて	シックな色の葉物とユウゼンギク等	
	10	・ハーブを植え、香りを楽しむ	セージ類、ローズマリー、ラベンダー等	
		・秋植え球根とパンジーの2段植え	チューリップ、ヒヤシンス、スイセン等	
		・秋植え小球根を植えよう	スノードロップ、クロッカス、ハナニラ、プシュキニア等	
11	・紅葉の美しい樹木を主役に	モミジ、カエデ、ナンキンハゼ等と小型草花		
	・ゴールドクレストを使ってクリスマスの寄せ植え	クリスマス風飾りを付ける		
	・ユリの球根を植えよう	開花まで時間が掛かるが感動的		
冬	12	・伝統園芸植物でお正月を飾る	ヤブコウジ、マンリョウ、カラタチバナ等	
		・松の苗でオリジナルなマイ門松を作ろう	20～30cmの松の苗と笹等を使う	
		・寒い冬もお花いっぱい寄せ植え	葉牡丹、パンジー、スイートアリッサム等	
		・球根の水栽培orハイドロカルチャーに挑戦	ヒヤシンス、クロッカス、チューリップ等	

2. 事前準備 (様々なシチュエーションが考えられるので臨機応変に対応する)

主催者または会場と打ち合わせ (開催場所の確認)

搬入：搬入経路、車の乗り入れの有無、事前受け入れ (宅急便等) の有無

日時：前準備+実際の授業時間+後片付けの時間を確認

場所：設備 (黒板・机・イス等)、床の養生、テーブルの養生、水場に関する確認

備品：清掃道具

ゴミ処理：ゴミ処理の方法の確認 (会場側、講師側)

花育内容の打合せ

授業の一環として行なう場合は、担当教員と打ち合わせ、子供達に伝えたいことを話しておく。子供たちが個々で準備できるもの、学校・会場が準備できるもの等を打ち合わせる。

(筆記用具、軍手持参、持ち帰り袋、ペットボトルで土入れスコップを製作する等)

制作する寄せ植えのテーマやコンセプトを決定。



500mlのペットボトルで作った土入れ

事前の準備

会場整備：ブルーシート、養生テープ、新聞紙 (机の上に敷く)、ゴミ袋、清掃道具、作業時土を落とす器 (鉢皿や大形レジ袋を広げて使う)

道具：ジョウロ、水差し、霧吹き、はさみ、バケツ

資材：鉢、土入れスコップ、肥料、用土、割り箸、持ち帰り用袋

(ごろ土、鉢底ネット、使い捨て手袋) (土入れスコップは、ペットボトルで予め作成してもらっても良い)

花苗：季節のもの、ケミカルコントロールされていないもの、株元の丈夫なもの、根が丈夫なもの

レジメ：子供たち用レジメ、保護者用栽培管理説明書、記録用シート

アシスタントとの打合せ

予め、作成予定の寄せ植えのコンセプト、当日の流れ、注意事項を打ち合わせる。

3. 作成例 予算：500～1000円

冬の屋外でお花をきれいに咲かそう (12月、1月、2月講習)

花材：ビオラ (冬期でも花が咲く品種) 2ポット、シロタエギク=1ポット、
プリムラ・ジュリアン=1ポット

太陽が大好きなお花たち (6月、7月講習)



花材：ニチニチソウ=2ポット
コリウス=1ポット



花材：ジニア=1ポット、ペンタス=1ポット
センニチコウ=1ポット、フィカス・プリムラ=1ポット

お部屋でたのしむ葉の美しい植物 (通年、観葉植物のハイドロカルチャー)

花材：ハイドロカルチャーで育てられたミニ苗。

姿や形の異なるもの=3株



資材：穴のない透明な器 (プラスチック製が良い。ペットボトルで作成しても良い)、
植え込み材 (ハイドロボールやネオコール等)

4. 当日の流れ

時間：2時間～2時間30分（搬入・準備：1時間→実作業：45分→片付け：30分）

実作業：説明・デモ（15分）→植え付け作業（15分）→説明・片付け（15分）

● 準備

*主催者側担当者・講師・アシスタントが集合したところで、今日の進行・講習内容を再確認する。

① 会場設営

- ・床、机への汚れ対策（ブルーシートを敷く、テーブルに新聞紙等を敷く）
- ・机の並べ変え（個々なのか、グループ4名ほどで作業をするのか考慮）
- ・会場備品のチェック

② 材料・備品の運び込み

③ 資材配布

- 鉢・土入れスコップ・割り箸・肥料・用土（ごろ土・植え土・カバー用素材）・鉢底ネット（必要なら）・根崩し等の作業をするための器（鉢の受け皿や大きなレジ袋）・手袋
- *用土は、一人用に予め小分けするか、グループごとに1ヶ所に置くのか決める。

④ 花材配布

- ・配布時に苗のチェックを行い、質の悪いものはねておく
- ・花色に違いがあるものは、配布方法を予め考えておく（じゃんけん、くじ引き等）
- *十分な花材がある場合は、個々で選ばせても良いが、花選びには十分な時間（10～20分）を予定する。

⑤ レジメ、記録シート、文具等を配布（小学生の場合）

記録シートは、植え付けが終わった後に、各自で記入し、植物や寄せ植え作業を印象づける。

● 始める前に

① 挨拶

自己紹介、アシスタントの紹介。

② 今日のテーマを話す

寄せ植えのコンセプト 例：クリスマスの寄せ植え等、行事をテーマにしたのなら、簡単にその行事のいわれ等を話す。

③ 植物の名前と原産地、性質を説明

- ・子供たちに問いかけたり、植物に触れながら（感触・香り）説明すると良い。
- ・和名、流通名、学名：植物には色々な名前があることを知る。
- ・原産地：世界中から日本にやってきていることを知る。
- ・生産地：ここまで生長させるためには、栽培農家が丹精を込めて育て上げていることを知ってもらう。子供と何らかの関係のある土地なら、親しみが湧く。
- ・性質：1～2年草、多年草、伸び方や最終の大きさ、好きな場所等。

④ 注意

植物は、有毒のものもあるので、口に入れたりせず、作業後は手を洗うことを説明する。

● デモをする

植え付けの手順や植物の扱い方を見せる。

その際に‘なぜ’この作業をするのか説明できることが重要。

デモ時には、手元が見える場所に移動させると良い。

① 下準備

- ・鉢を用意（鉢に模様や足がある場合は、正面を決める）
- ・用土を入れる（土の大切さ、用土を入れる位置）
- ・肥料を入れる（肥料の必要性の説明。一人分ずつ小分けしておくが良い）

② レイアウト

- ・植物の伸び方や置く場所を念頭に入れ配置をすることを説明。
- ・実際の作業の時は、同じにしなくても良いことを伝える。
- ・見本を見せても、実際の作業では、それぞれ配置を工夫していることが多い。

③ 花苗のチェック

植え込み前に花苗の枯れ葉、虫の有無等の確認。

④ ポットからの抜き方説明

苗を優しく扱うこと（プラスチック鉢の苗があったらその扱い方）

⑤ 根鉢の処理

なぜ、根鉢を崩すのか、又は、少し根を傷つけるのか等を説明。

⑥ 植えつけ

- ・植えつける際の注意点を説明（用土の入れ具合、高さ、花の向き）
- ・植付け時に全体の様子を離れてみることを伝える。

⑦ 仕上げ

- ・美しい寄せ植えにするには、仕上げも大切。
- ・表面の土を平らにならし、場合によっては、表面にバークチップ等を置いても良い。

⑧ 質問を受ける

今までの、手順での質問を受ける。

*ところどころに、植物の雑学を交えながら話すと、一層植物に興味を持つ

● 植えつけ作業

- ・プロセスを再度、説明しながら各自作業に入る。
- ・手袋をさせても良い。
- ・全体に目配りし、戸惑っている子供のみ声をかけ、様子を聞く。
- ・勝手に手を出して作業を手伝わないこと。
- ・順調に進んでいる子供には、「よくできているね」と、誉める言葉を一言かける。



● できた人から

自分の周りを片付け、整理させる。

早く終わった子供たち、「記録シート」を自分で記入する。

- ・花の名前を印象付ける
- ・今日の作業を印象付ける
- ・保護者等との会話が広がるように仕向ける
- ・作った寄せ植えの思いを記録する

● 全員の作品が出来上がったならこれからの管理の注意点を説明する

(子供用の簡単な管理のレジメ、または、保護者用のレジメを用意しても良い)

(中には、途中で枯れてしまう苗もあるかもしれないことを伝える→ケア)

- ・何人かの子供たちに、今日の感想や自分の寄せ植えへの思いを発表してもらう。
- ・質問があったら受ける。
- ・水やりができるのなら、出来上がった寄せ植えに水やりをする。
- ・時間に余裕があるなら、植物に関連した絵本を読んでも良い。
- ・生育途中の経過のお便り等も出すようにしても良い(教師と相談)。
- ・持ち帰りの準備をする。

● 終わりの挨拶 自分の周りを片付け、整理させる。

● 最後に

- ・時間があるようなら子供たちに手伝ってもらいながら、簡単に後片付けをする。
- ・残土・ビニールポットの処理の方法→持ち帰りor現場で処分
- ・シートの撤去、床面・机面の掃除を行い、元の位置に戻す。
- ・資材等の撤去(スタッフ全員で)
- ・主催者・講師・アシスタントで簡単な反省会を行なっても良い。
- ・主催者に、寄せ植えの今後のメンテナンス等のアドバイスしておいても良い。

● 終了 関係者・スタッフで挨拶 解散

き ろく
記録シート



年 月 日

名前

とくちょう
花の名前と特徴

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

思ったこと、感じたことを書こう

